

あれから5年 3.11 そのあと

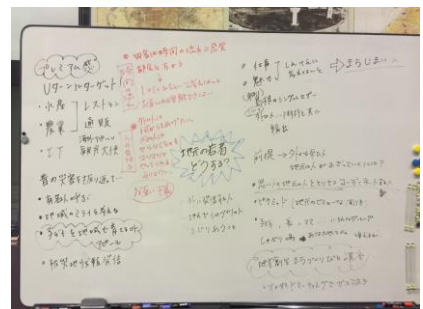
毎月1回開催しています、未来茶輪（みらいかふえ）。2月はNPO法人愛知ネットの天野理事長をゲストに迎えて、被災地の今をうかがいました。

☆愛知ネットとは

防災をテーマにして活動しているNPO法人です。数年前にあった東海豪雨のとき、岡崎市でも川が氾濫し犠牲者が出るという被害がありました。そのとき、ボランティアアセンダーを立ち上げ、支援して下さったのが、愛知ネットさんでした。

(<http://www.npo-aichi.or.jp/content/index.php>)

そして、東日本大震災では、岩手県住田町にトレーラーハウスを置き、そこから陸前高田市へ支援に通っていました。今回、5年を機にその支援を終えるとの報道もあり、新たなステージへ移ったようです。



☆支援を終える理由は？

人道的な支援の段階は終わり、今はまちをつくっていく段階になり、人口減少、雇用の問題などの課題を5年間の活動とは違う視点から解決していく段階になったとのことでした。

子どもたちが地元に戻って来やすくなるような奨学金を設けたり、そのための資金も生み出す仕組みを作ったりしていらっしやるそうです。

☆日本の最先端の課題

超高齢化、人口減少など、日本の深刻化していく課題の最先端が被災地にあります。「地元に戻ってきた若者はどうふるまえばよいのか？」について話し合いました。Uターン、Iターンしてきた若者と地元の方々では時間の流れるスピードが違うとのこと、この中で若者が暮らしていくには？というのは、古くて新しい課題でした。

地元に戻っても、一旦違う土地で暮らした若者だけでなく、もしかしたら高齢の方も、時間の流れの違いに戸惑うことがあるかもしれません。

☆NGOの成長4段階説というのがあります。それを思い出すようなお話でした。

一旦なくなってしまった「まち」を再建するには、若い世代だけでなく、いろいろな世代の人がそこに住む、ということが必要なことだと思いました。多様な人々の想いや暮らしがあってこそその「まち」なのだ改めて感じた会でした。